

学校法人藍野大学 中期計画 (2020 年度)

<建学の精神>

～Philo-sophia～

人間教育を行い、「知」を愛すること

学校法人藍野大学は、昭和 43 年に医療法人恒昭会藍野病院附属准看護学院として開設されたことに起源があります。Philo-sophia を藍野精神の第一義とし、それを学生に教育し、そのための高等教育機関をつくることを建学の精神としています。

<教育理念>

～Saluti et Solatio Aegrorum～

「病める人々を医やすばかりでなく慰めるために」

歴史をふりかえると医学は経験的医療として存在していましたが、ルネッサンス以降（19 世紀以降）、医療（科学）と宗教（思想）の分離が進み、さらに近代科学の発展により医学が進歩により医学と医療が分離し、その結果、医学は「人体の研究と疾病の治療・予防を研究する学問」となり「目前の病人の病気はなにか？」という視点に変化していきました。しかし、本法人創設者小山昭夫は、その著書の中で「医療というのは眼前に付している苦しむ病者をその対象としているのである。だから医療は医学に則りながらも人間の病苦と対決していかななくてはならない。すなわち人間の「病」というより、「苦」についての配慮をもし忘れるならばそれは医療ではない。(小山昭夫, 人間と病気-医学と医療について-, 1983, P.9)」と述べています。すなわち、病気を医学的に治療すると同時に、病に対する狼狽感や恐れなどを持つ患者様の心に寄り添い慰めを与えることが医療人の理想であるという思いです。本法人は、「病める人々を医やすばかりでなく慰めるために」を教育理念として掲げ、高度な専門的技量の獲得と同時に、この思いに裏打ちされた人間性豊かな医療人を育成することを目標としています。

日本の社会は、急激な社会構造の変化の中、最新の知見に根ざした医療サービスとともに、地域に密着し、心の通った安心できる医療の提供を求めています。本法人は、人間に対する深い愛を持ち、生涯にわたり医療職としての誇りを持ち続け、研鑽を怠らない医療人の育成により、社会の要請に応え、日本の地域医療の質の向上に貢献します。

<共通目標>

学校法人藍野大学は、このような医療人の育成を行うために、中期計画において法人全体の共通目標を設定しています。

1. 社会変化に対応した教育の質・学生サービス強化に向けた施策と将来投資を行います。
2. 理念を共有する関連病院・福祉施設との交流による医療人の育成、研究開発の推進などに取り組みます。
3. 教育機関、企業との共同研究等により、医療、保健、健康増進などの分野における新たな社会的価値の創出と教育、社会への還元に取り組みます。
4. 公的機関や地域との連携により、地域の発展に貢献します。

<藍野大学の重点戦略と具体的な施策>

① 最新の知見に根ざした医療サービスを提供する医療人の育成

- 教育理念を理解・体現する優秀な教員による指導

本学の教員には、地域とともに歩める医療人を育成できる資質と情熱が求められます。「面倒見の良い大学」としての教員の資質を高めるため、FD 活動強化による教育力の向上を図るとともに、研究力を向上させ、外部資金の獲得増に力を注ぎます。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
教員評価の実施	評価制度の 策定	2024 年度までに 実施・2025 年度 に検証
教員のうち博士学位取得率	46.6%	70%以上
FD・SD 公開研修会の実施（参加率）	年 2 回 (75%)	年 3～5 回 (90%)
科学研究費補助金採択数	年新規 6 件	年新規 8～10 件
科研費以外の競争的研究資金採択数	2 件	2020～25 年度 までに 5 件以上
受託研究、奨学寄附金件数	2 件	2020～25 年度 までに 5 件以上

- 藍野グループの医療施設と共創する「生きた」実習

医療人の育成にとって重要となる学内演習および学外の臨地・臨床実習の充実を図ります。特に、藍野グループの医療法人恒昭会、社会福祉法人藍野福祉会での実

習は単に学生の実習の場というだけでなく、イベントの共催など多様な共創の場であり、有益な学生の教育の場になっています。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
藍野グループ共催イベントへの学生の参加	学科レベル	学部レベル
藍野グループへ就職する卒業生の割合	若干数	5 %

- カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) やグリフィス大学での研修による国際力の養成

本学は医療専門職育成の学部のみということもあり、グローバル人材を育成する教育課程にはなっていません。しかし、時代の要請に鑑み、短期海外研修科目を充実させ、国際人としての素養教育にも力を入れます。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
TOEIC 試験スコア向上	研修参加学生のみ	キャリア講座を年 3 回実施
外国人教員の採用、学生に対する指導	試行段階	常時指導
海外提携大学数の増加、短期留学制度の充実	2 大学	2025 年度までに 5 大学程度

- 入学前から卒業までの充実した教育による社会への輩出

入学から、国家資格を取得して希望する就職先に就くまでのエンロールメント・マネジメントを適切に行うために、さまざまな指標によりアセスメントを行い検証していきます。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
4 年卒業率	82.7%	87%以上
4 年退学率	12.8% (2018)	10%未満
教員学生比率 (ST 比)	16.3 人	15 人 (学科平準)
累積 GPA 分布	内部検証	改善度公表
授業評価アンケートの活用、満足度	表彰制度開始	2025 年度までに数値公表
卒業時アンケートにおける満足度	結果公表	2025 年度までに改善度公表※

※2021 年度までに分析、2023 年度までに改善を実施、

- 内部質保証と重要科目での埋め込み型パフォーマンス評価（PEPA）の導入をはじめとする学習成果の可視化

第3期認証評価で重視される教育の内部質保証と、それに密接に関連する学習成果の可視化を推進します。学習成果の可視化においては、カリキュラム内の重点科目を選んでパフォーマンス評価を行う PEPA の手法も採り入れます。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
内部質保証体制	新方針策定	2021 年度に検証・2022 年度に改善策を実行
アセスメントプラン（学習成果の評価指標）	策定・公表	2021 年度に検証・2022 年度に改善策を実行
シンメディカル授業の推進※	刷新実施	2020～23 年度の 実施結果を 2024 年度に検証
認証評価	3 期準備	2023 年度に第 3 期認証評価受審、 2024 年度以降第 4 期取組実施

※多職種理解を通して職業の専門性を知り、連携した問題解決の方法について討議・学習する授業。

② 社会に必要とされる教育・研究の実行

- 中央研究施設による教員と学生による研究の実践

中央研究施設は、藍野大学の附置機関として主に大学の教員が利用していますが、今後、びわこリハビリテーション専門職大学の教員、短期大学の教員並びにこれらの設置校の学生の実験、研究の場としての活用を促進します。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
論文数	若干数	2020～25 年度に 7～8 編
研究員、客員研究員の受け入れ	2 名	5 名以上
特許出願および取得	共同 1 件	共同 1 件新規

- 高い国家試験合格率の堅持

4 学科の国家試験合格は、本学が最も重きを置いている目標のひとつであり、4

年制大学の平均合格率以上を最低の目標とし、100%またはそれに準ずる数値が常態的に達成できることを継続していきます。

KPI	2019年度 実績	2025年度 目標
国家試験 100%合格	一部学科達成	全学科達成
国家試験対策支援策（施設・外部試験等）	実施	毎年効果検証

- 卒業後の継続的な支援によるシームレスな学びの場の提供

医療専門職育成大学の特徴として、卒後教育、卒後研修の取り組みがあげられます。卒後研修は、在籍学生の教育にも生かされるため、今後、その活動を拡大していきます。

KPI	2019年度 実績	2025年度 目標
卒後研修会の実施	理学療法学科、 作業療法学科で 実施	実施形態の 多様化
共同研究に関する学会発表	検討中	年1回実施

- 地域共生社会との共創を目指す生涯学習の場としての活動

市民公開講座、教員免許状更新講習などの地域住民、学校教員を対象とした講習を毎年実施しています。今後は Medical Learning Commons の施設を活用したさらに魅力的な生涯学習プログラムの実施を企画します。

KPI	2019年度 実績	2025年度 目標
市民公開講座の参加実績	年3講座 194名	年4講座 300人
藍野病院等で開催する市民公開講座への学生・教員の参加数	一部学科 学生・教員	全学科 学生・教員

- 新たな学部および大学院修士課程・博士課程の設置に向けた取り組み

現在本学の学部・学科は、医療系の国家資格取得を目標としたもので構成されていますが、今後、国家資格に拠らない学部・学科の設置について構想中です。また、大学院は、看護学研究科の修士課程のみを設置していますが、看護、リハビリテーション分野の学術の高度化に伴い、早い時期に、看護学研究科の博士課程およびリハビリテーション分野の研究科の設置を企図します。

KPI	2019年度 実績	2025年度 目標
国家資格に拠らない新たな学部の設置	構想検討着手	設置予定
看護学研究科後期博士課程の設置	構想中	2022年度に 設置
リハビリテーション分野研究科の設置	構想中	2023年度に 設置

③ 様々な学生のニーズに対応できる環境の整備

● MLCを活用した能動的な学習の場の提供

アクティブラーニング、ICT教育、反転授業など、多様な授業実践の方法が各方面から推奨されています。2020年度から稼働するMLCはこれらの授業実践に必要な設備を完備しており、学生の学習成果に効果が上がるようにさまざまな取り組みを今後行います。

KPI	2019年度 実績	2025年度 目標
アクティブラーニングによる授業比率	約20%	50%以上
データサイエンス教育の強化	FDの実施	科目設定・実施
学習支援システム（manaba）の活用	導入開始	2020～23年度の 実施結果を2024 年度に効果検証
学修行動調査（授業時間・態度）	実施公開	2021年度に検 証・2022年度に 改善策を実行

● 受験生が志願しやすい選抜方法の設定と修学支援施策の充実

2021年度から入試制度が変更となり、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜という選抜区分に変更されますが、学力面・志望動機面ともに優秀な学生を獲得するために選抜方法を絶えず見直すとともに、必要な修学支援施策を企画・実施していきます。

KPI	2019年度 実績	2025年度 目標
志願者倍率	志願者倍率 2.5倍	志願者倍率 3.0倍
入試区分別成績状況、退学率	複数年検証	前年度の実施結 果を毎年検証

修学支援制度の利用者数	授業料減免 1 名、 自宅外奨学金給付 5 名	授業料減免 8 名、 自宅外奨学金給付 8 名
-------------	-------------------------------	-------------------------------

- 独自の求人支援システムを活用したキャリア支援

現在、本学は独自の求人情報システム AINO NAVI を整備運用していますが、学生は大手情報系企業の就職情報を主に活用しており、今後、本学で提供する就職およびキャリア情報のあり方について学内で検討を重ね、学生の求める情報を発信するとともにキャリア講座の設置を検討します。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
卒業時アンケートによる学生の満足度	実施済	2025 年度までに 詳細な結果の公表
求人情報システムの刷新	移行検討中	2020 年度試行、 2021 年度以降 移行
キャリア講座の設置	今後検討	2025 年度までに 1 講座設置

④ 社会連携の深化

- プロスポーツ団体とのパートナーシップ協定による専門知識の習得と就業力の養成

理学療法学科および作業療法学科では、リハビリテーション医学を実地でスポーツの分野に応用する能力を身に付けるため、プロスポーツ団体と提携した活動を行っています。今後とも提携活動を促進し、教育、研究に活用していきます。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
提携プロスポーツ団体	2 件	3 件

- 学生参画型の自治体、民間企業との研究事業による学生の社会性の育成

現在、地元の茨木市に住む中・高齢者を対象にした健康増進事業を、理学療法学科を中心に行っています。これは、私立大学改革総合支援事業で採択された補助金を活用したものであり、学生の学びの場にもなっており、今後とも継続して活動します。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
健康増進事業の連携先からの評価	未実施	2022 年度 までに検証し 継続
教育課程への組み込み	未実施	2025 年度ま でに選択科目 1 科目

⑤ 高大連携の充実

- 高等学校との連携協定による藍野大学の認知度向上

高大連携については、現在、高大連携協定校が 2 校、その他クラブ活動等への支援、連携活動を行っている高等学校が数校あります。高大連携は、大学教員が高等学校へ出向き、または高校生を大学に招き授業体験をしてもらうことから、教員や職員の協力が不可欠です。今後も高大連携協定校との関係を強化しつつ、新たな協定締結の可能性も継続して検討します。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
高大連携協定校	2 校	3～4 校

- 藍野高等学校からのグループ内進学強化

2020 年度から藍野高等学校に 4 年制医療系大学進学を目指す「メディカルサイエンスコース」が設置されたことを受け、藍野大学への内部進学制度を設け、大学の教員が高校生に特別授業などさまざまなかたちでかかわり、大学入学に結び付けます。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
藍野高校からの内部推薦制度	制度構築	2022～24 年度の 実施結果を 2025 年度に検証
教員の相互交流	会議のみ	年 1 回研修

<藍野大学短期大学部の重点戦略と具体的な施策>

① 強い信念と柔らかな心を持った医療人の育成

- 教育理念を理解・体現する優秀な教員による指導

本学の教員は教育理念を理解し具現化するために『強い信念と柔らかな心』を教

育スローガンに定め、人間力の向上に資する教育・研究を実践しています。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
人間力向上に向けた研修の開催	開催なし	年 1 回開催

- FD 推進委員会による教員の教育力の更なる向上

教育力の向上を目的とし、アンガーマネジメントや学生対応に関する FD 研修会を積極的に開催しています。また、研究倫理委員会と連携して研究倫理とコンプライアンスの徹底を図っています。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
年間の FD 研修開催件数	2 回	5 回

- 入学前教育・リメディアル教育の充実

特に早期入学決定者には、事前課題を与え、模擬試験を実施し、個々の不得手な部分を可視化することで、入学前より個々に合わせた指導を行い、不得手な部分を重点的に引き上げています。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
入学初年度における休退学率	6.5%	3%以下

② 社会に必要とされる教育・研究の実行

- メディカル・ヘルス・イノベーション研究所における地域医療の研究

2019 年に保健医療政策、地域医療と協働して幅広い学際的な研究とその成果を地域に還元すること、地域社会が求める保健活動に関する知識を有する人材の育成とその情報発信をすることを目的としたメディカル・ヘルス・イノベーション研究所を設立しました。この研究所では、医学領域・公衆衛生学領域、メンタルヘルス領域、子育て・発達支援センターの 3 領域で構成しています。

メンタルヘルス領域においては富田林市との共催で、加齢に伴う様々な問題に関する公開講座の開設やグリーンケアに特化したカウンセリングルーム、傾聴ボランティア講座を計画しています。また、藍野病院と共同で地域連携スキームを立ち上げ、藍野病院リウマチセンターと共同し、実践的看護教育の確立を目指します。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
各講座の設立・運営	開催なし	年 1 回開催

- 訪問看護ステーションの設置による地域貢献と学生の現場力の向上

2020年4月、メディカル・ヘルス・イノベーション研究所の一環として発達支援リハビリテーションに特化した訪問看護ステーションをAINOPIA2階に立ち上げ、地域貢献に寄与するとともに、教員の再教育や学生の実習の場としての役割を果たします。

KPI	2019年度 実績	2025年度 目標
月平均利用者数	開設準備	135人

- 高い国家試験合格率の堅持

国家試験合格率の更なる向上のための国家試験対策委員を配する他、外部講師による国家試験対策として40回におよぶ講義や試験結果によってクラス分けをし、個々の弱点を個別指導することで学力の引き上げを図り、合格率100%を目指します。

KPI	2019年度 実績	2025年度 目標
国家試験合格率 第一看護学科	87.5%	95%
第二看護学科	84.0%	95%
専攻科	97.5%	100%

③ 社会連携の深化

- 社会のニーズに沿った公開講座の展開

2016年度から開講している「健康長寿講座」も2019年度で4回目となり、毎年度近隣の皆様から高い評価をいただき、毎回満員の講座になっています。このような社会のニーズに対応するべく、多様な公開講座の開設を目指す中、特に高齢化が進む地域性を鑑み、「健康長寿講座」の他にも認知症予防や高齢者の生活にかかわる公開講座を計画しています。

KPI	2019年度 実績	2025年度 目標
公開講座件数	3回	6回

- 地元自治体との連携強化

茨木キャンパスにおいては茨木市との官学連携協定を締結しており、さらなる連携強化を図っています。富田林市に位置する青葉丘キャンパスにおいては、富田林市との連携はもとより、隣接する大阪狭山市との連携を強化し、より深くかかわることができるよう計画しています。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
連携強化地域	2 市	3 市

④ 高大連携の充実

- 高校との連携協定による短期大学の認知度向上

今年度は大阪市内、大阪府下それぞれ1校ずつの高等学校と連携を結び、出張講義をカリキュラムに組み込んでもらい、医療にかかわる質の高い講義を計画しています。また藍野高等学校に新しく設置されたメディカルサイエンスコースも含め、短期大学ならではの特異性を知ってもらい、専攻科への進学についても周知していきます。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
高大連携協定校の数（累積）	5 校	8 校

- 藍野高校からのグループ内進学強化

現在は藍野高等学校で准看護師の資格を取得することにより、第一看護学科へ内部進学し、2年間で看護師の受験資格が与えられる最短コースです。

今後は藍野高等学校に大学進学を目的として新設されたメディカルサイエンスコースから3年間で看護師受験資格を取得できる短期大学部第二看護学科への内部進学へとシフトさせていきます。

3年で看護師資格を取得した後、専攻科に進学することにより、4年制大学卒業の認定を受けることができます。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
メディカルサイエンスコースから短期大学部への内部進学率	実績なし	20%

< 藍野高校の重点戦略と具体的な施策 >

① 藍野高校だからできる教育の実行

- 高大連携による重層的かつ一貫性のある教育システム

本校は藍野大学、藍野大学短期大学部のアドミッションポリシーを踏まえ、グループとして育成を目指す人材像を共有し、教育の連続性によって共通化される教育システムを構築します。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
藍野大学・藍野大学短期大学部との教育連携協定	策定	実施による結果検証

- 短期大学部との密な連携による広い視野を持った人材の育成

本校は 3 年間で准看護師資格の取得を目標とし、卒業後は藍野大学短期大学部への内部進学により、看護師資格を最短で取得できるルートとして実績を上げてきました。今後メディカルサイエンスコースの設置により進学先は広がりますが、藍野大学短期大学部との内部進学等接続面での密な連携を維持することにより、広い視野を持った人材を輩出していきます。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
メディカルサイエンスコースより藍野大学短期大学部への内部進学者数	実績なし	20%以上

- 学習到達目標の設定による生徒の意欲と自己学習能力の向上

各教科の基本プランの充実を促し、学習到達目標の設定を数値化、各学年での目標を明確にすることにより、生徒の学力向上やスキルアップを図ります。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
2 年生 11 月以降の進研模試 4 回受験で 2 回分の成績が学校指定の 2 科目の偏差値平均 1 回は 55 を超え、別のもう一回は 50 を超える。	構想中	10 名以上
2 年生 11 月以降の進研模試 4 回受験で 1 回分の成績が学校指定 2 科目の偏差値平均 50 を超える		
2 年生 11 月以降の進研模試 4 回受験で、学校指定 2 科目の偏差値 50 以上。受験した回は問わない。(科目ごとに受験回が変わってよい)		
2 年生 11 月以降の進研模試 4 回受験で、2 回分の成績が学校指定 2 科目の偏差値平均 50 を超える		

② 様々な学生のニーズに対応できるサポート体制や教育環境の整備

- 医療職の実情を体感し、能力・適性にあった進路決定の支援

メディカルサイエンスコースでは、グループ校と連携した授業を展開し、看護系だけではなく医療職の知識を高めることで、自身に適した医療職を探究することを目的としています。大学入試の要件として、キャリアパスポートを導入し、学習成果の可視化ができる環境を整えます。

KPI	2019年度 実績	2025年度 目標
メディカルサイエンスコース教育課程における高大連携プログラムの実施	策定	効果検証
キャリアパスポートの実施	カスタマイズなどの運用準備	実施検証

- メディカルサイエンスコースの特徴を活かした生徒募集

まずは、2020年度からメディカルサイエンスコースに入学した生徒のカリキュラム面での満足度を高めるとともに、藍野大学への内部進学、四年制大学進学等進学面への指導において実績を上げます。また、高大連携の教育課程についての熟成を高め、本校独自の取り組みをPRすることで、志願者獲得につなげます。

KPI	2019年度 実績	2025年度 目標
メディカルサイエンスコース志願者	6名	30名以上
ICT教育の実施	導入ツールの 絞り込みなど 検討	実施による効果 検証、改善

- 校舎の老朽化への対応

現在の校舎は開学前からの残存建築物の流用であることから、老朽化への対応と共に耐震化対策が喫緊の課題です。2023年4月より新校舎への移転方針が機関決定されていますが、具体的な移転計画の策定及び実行について法人事務局と協力し行います。

KPI	2019年度 実績	2025年度 目標
新校舎移転	計画段階	運用実施

③ 高大連携の充実

- 藍野大学・藍野大学短期大学部へのグループ内進学強化

メディカルサイエンスコースから藍野大学、藍野大学短期大学部他の内部進学を行うべく、高大連携協議会を定期開催し、内部進学に関する成績条件面など協定

内容の調整を進めています。今後、正式な内部進学協定の締結を行います。本校としては、藍野大学への内部進学を希望する生徒には、進学条件に適合させるための進路指導を行い、高大間合計 7 年での医療人材育成を行うシステムを強化していきます。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
メディカルサイエンスコースより藍野大学及び藍野大学短期大学部、びわこリハビリテーション専門職大学への内部進学	構想中	10 名以上

<びわこリハビリテーション専門職大学の重点戦略と具体的な施策>

① 高度な実践力と豊かな創造力を備えた医療人の育成

- 教育理念を理解・体現する優秀な教員による指導

新設の専門職大学ではありますが、本法人の教育理念を十分に理解している教員が多数いる一方で、新規に就任する教員も多数います。

そのため、本法人の理念、歴史、本学の教育目標等についての FD は必須であり、その上で本学の目指す教育を行います。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
FD プログラムの作成、実施	未作成	年 1 回の実施

- 専門職大学ならではの実践的な職業訓練

リハビリ専門職として、現在も臨床現場で活躍している教員による講義を通じて実践的な能力を養います。教員たちの臨床のフィールドは、スポーツチーム、整形外科クリニック、療育園など多岐にわたり、それぞれの強みを生かした教育を行います。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
各フィールドでの臨床実習	実施へ向けた調整	臨床実習の実施

- 地域でリハビリテーションを実践できる人材の養成

本学は「地域共生社会の実現に資する人材の養成」を教育目標に掲げています。その目標の達成に向け教育課程連携協議会を設置しており、2020 年度より年に 2 回程度、地域の行政関係者、理学療法士会、作業療法士会の会長等と地域でのリ

ハビリテーション職として必要となる技術・能力について意見交換を行い教育に反映させていきます。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
教育課程連携協議会の開催	実施方法の検討	年 2 回の実施
教育課程の改正	なし	教育課程の改正

② 社会に必要とされる教育・研究の実行

- 開かれた大学として卒業後の知識のアップデートの支援

滋賀県理学療法士会・作業療法士会との連携により、県下の理学療法士・作業療法士に対して研修会を実施します。2020 年には具体的な年間計画を策定し、2025 年までに各士会と本学の共催をめざします。

また、義務化された臨床指導者講習会も年に 1 回～2 回開催し、実習先の施設の指導者の養成にも取り組み、その上で臨床実習が本格化する 2022 年度までに現行の実習施設の指導者の講習を終えるとともに、その後も継続して臨床実習指導者講習会を開催し、地域のリハビリテーション専門職の知識向上に貢献していきます。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
滋賀県理学療法士会、作業療法士会との研修会の共催	研修内容の 検討	プログラムの 実施
臨床実習指導者講習会の実施	理学療法士臨床 指導者講習会の 実施(1 回)	理学療法士、作 業療法士ともに 年 1 回～2 回の 実施

③ 様々な学生のニーズに対応できる環境の整備

- 施設更新による魅力あるキャンパスづくり

開学に向けて施設の改修、増築を行いました。2020 年度には設置計画で購入を予定している三次元動作解析装置等を導入し、学生の学習環境の整備を進めて参ります。

2023 年度までに学内 Wi-Fi 環境の整備、教室内の設備のさらなる充実、電子書籍を含めた図書の実充も進めていきます。2023 年度以降は、八日市キャンパス等の活用も含め、キャンパスの充実を図る予定です。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
キャンパスの改修、機器備品の充実	設置に係る改修、機器備品の購入	設置計画を完了し、次の整備計画を策定する
八日市キャンパスの開設	検討開始	運用

- 独自の就職支援システムを活用したキャリア支援

藍野大学、藍野大学短期大学部、滋賀医療技術専門学校で使用している求人情報システムの更新を 2021 年度をめどに行います。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
求人情報システムの更新（再掲）	検討開始	運用

④ 社会連携の深化

- 地元自治体との連携強化

本学の設置の趣旨でもある地域共生社会の実現に向け、2020 年度は東近江市との包括協定の提携へ向けた取り組みを進めます。

その後、2025 年度までには東近江市以外の近隣の市との包括協定締結を進めます。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
地元自治体との包括協定の締結	検討開始	5 つ程度の自治体との協定を締結

- プロスポーツ団体とのパートナーシップ協定に基づく専門知識の習得と就業力の養成

本学は 2019 年度にバスケットボールのプロチームである滋賀レイクスターズとアカデミックパートナー契約を締結しました。2020 年度には他のプロスポーツチーム等と提携を目指し、学生の実習先とするだけでなく、プロスポーツチームとの共同研究等により、学生の専門知識の習得へとつなげていきます。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
パートナーシップ協定の締結	1 件	3 件

⑤ 高大連携の充実

● 高校との連携協定による専門職大学の認知度向上

本学は 2019 年度に近江兄弟社と高大連携協定を締結しました。2020 年度にはさらに 2 校程度の高等学校と高大連携協定を締結するために準備を進めています。2025 年度までには 6 校程度と高大連携協定を結び、本学教員の派遣や生徒の受け入れ等を進め、本学の認知度の向上に努めます。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
高大連携校数	1 校	5 校

● 藍野高校からのグループ内進学強化

藍野高校に 2020 年度開設されたメディカルサイエンスコースの生徒が卒業する 2022 年度に向けて、藍野高校の教員と本学教員の間での意見交換等を踏まえた上で、高大連携協定を締結、内部進学枠の確保等の整備を進めます。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
高大連携協定の締結、内部進学者の受け入れ	協定の検討開始	内部進学者 5 名

<法人運営の重点戦略と具体的な施策>

① 教職員の採用・育成

● 教職員の定着率向上

面倒見の良い学校作りを進めるためには、教育サービスと学修支援サービスなどを安定的に供給する必要があります。そして、そのためには、教員と事務職員が本法人に定着する必要があります。教員の平均勤続年数と事務職員の平均勤続年数を KPI として設定し、KPI の目標値を達成するために、労働条件の改善（退職金制度の充実や年俸設定の適正化）や働き方改革を進めます。

KPI	2019 年度 実績	2025 年度 目標
教員の平均勤続年数	7 年 11 ヶ月	10 年 0 ヶ月
事務職員の平均勤続年数	8 年 1 ヶ月	10 年 0 ヶ月

※平均勤続年数は、定年（教員 65 歳、事務職員 60 歳）未満の専任教職員のうち 3 月末日時点で次年度以降在籍することが確定している者を抽出して算出。

- 事務職員の資質・能力の向上

本法人の経営基盤を安定化させ、充実した教育サービスを学生・生徒に提供するためには、事務職員の資質と能力の向上が不可欠です。そのため、事務職員の資質・能力の向上と事務職員が行う業務の質を担保するため、2018年度に専任事務職員昇任試験制度とキャリアガイドラインを制定しました。長年継続して行ってきた人事評価制度と以上の制度を有機的に連関させることにより、評価の客観性を高める取組みを現在行っています。その人事評価の総合評価は、5段階（A、B、C、D、E）となっており、「B」以上であれば、その役割を十分に果たしていると言えます。そのため、「人事評価の総合評価がB以上の者の割合」をKPIとして設定し、KPIの目標値を達成するために、必要なSD研修を実施します。

KPI	2019年度 実績	2025年度 目標
人事評価の総合評価がB以上の者の割合	29.8%	45%

② 安定した財務基盤と積極的な投資

- 今後の成長に必要な財務基盤の確立

効率的かつ効果的な財政運営のため、収入面においては、十分な数の入学者の確保、未納者及び中途退学者の低減に努め、学校法人の主たる収入となる学生生徒等納付金を確保するとともに、補助金や付随事業による収入の拡充により学納金以外の増収を図ります。また、同時に経費の節減、事業費の縮減などにも積極的に取り組めます。経常収支差額（黒字）を教育研究活動に投じ教育の質を向上させるとともに収支バランス均衡に努めます。

KPI	2018年度 実績	2025年度 目標
経常収支差額比率	9.2%	6.2%

- 教育・研究の充実に向けた積極的な投資戦略

学生から選ばれるためには、充実した設備と質の高い教育が必要です。そのために教育研究活動の維持発展のために、積極的に投資を行い教育研究経費比率(教育研究経費/経常収入)を向上させます。

KPI	2018年度 実績	2025年度 目標
教育研究経費比率	25.9%	32.0%

- 徹底したファシリティマネジメントの実行

教育研究活動を支える基盤であるファシリティ（土地、建物、構築物、設備等）

の修繕・更新を計画的に行うことで、ファシリティの建設から廃棄までに必要とされる生涯費用であるライフサイクルコスト(LCC)を低減化させるとともに、利便性・快適性の維持・向上により学生・教職員満足度向上を目指します。

KPI	2019年度 実績	2025年度 目標
ファシリティ維持・更新計画の策定	随時対応	過年度実績より LCCの標準額を 算出し、それを 基づく額を予算 化します

- これまでの財政状況と今後の見通し

2008年度の本法人の財政状況は、日本私立学校振興共済事業団の「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分(平成17～24年度版)」で示すところの「B4」と当時の区分では最も危機的で危ういレッドゾーンにありました。しかし、2013年度には正常状態とされる「A2」(黒字幅：帰属収支差額比率12.1%)まで回復し、現在、9年連続しての黒字と本法人の運営は安定的に正常な状態を維持しています。

2020年4月の藍野大学の入学定員増だけでなく、関西初となるリハビリテーション専門職大学として、「びわこリハビリテーション専門職大学(理学療法学科80名・作業療法士学科40名)」が2020年4月に開学します。これにより学校法人全体の収容定員が大きく増加し、収入基盤が拡大します。さらに、2016年度から2019年度までびわこリハビリテーション専門職大学設置のため行っていた入学者数の抑制を2020年度以降は行わないこととなるため、学校法人の主たる収入である学生生徒学納金収入が増大すると予想しています。

支出面においては、びわこリハビリテーション専門職大学が完成年度を迎える2023年度までは設置申請書記載通りに教育環境を整備する必要があるため、継続的に大きな支出が発生することが見込まれます。それに対し、組織改編による類似・重複事業の整理統合、ICTやAI等の活用による業務の効率化及び教職員の資質能力を高め労働生産性を向上することにより、経常費の支出を抑制する取り組みを行います。

- 校友会組織の強化と扶助会の設立

現在の校友会の活動は、設置校単位での総会と学祭への参加が主なもので、会員の相互親睦が活動の中心となっています。扶助会は現在どの設置校存在していませんが、学生生徒の在学生活を充実した有意義なものとするためには、保護者と各

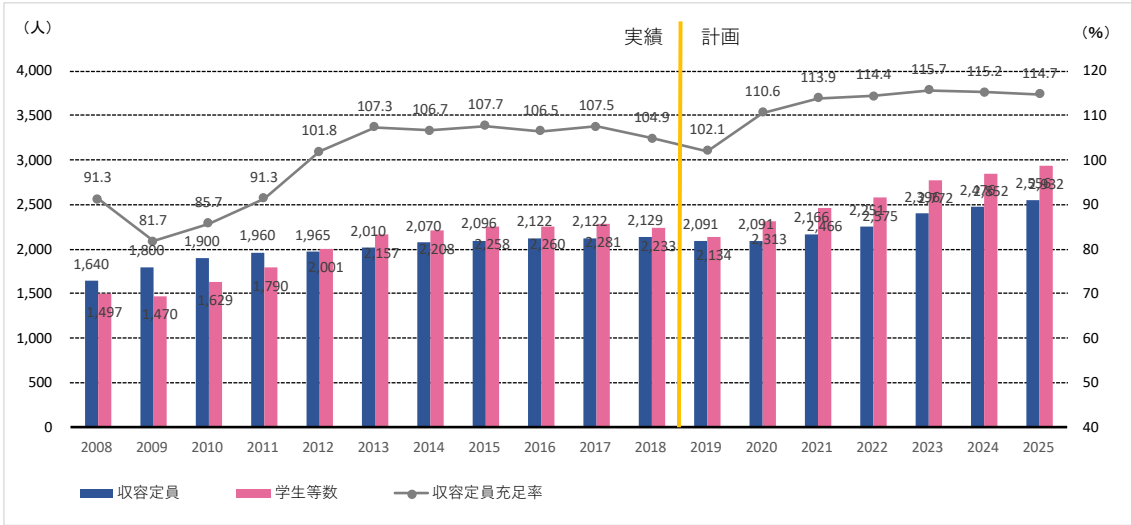
設置校との連携を密にしていく必要があると考えています。さまざまなステークホルダーの中でも特別な位置を占める卒業生と在学生の保護者とのパートナーシップを深め、相互支援の関係を築くための取り組みを行います。

KPI	2019年度 実績	2025年度 目標
卒業生・在学生保護者との連携強化策の策定	未実施	連携施策の実施

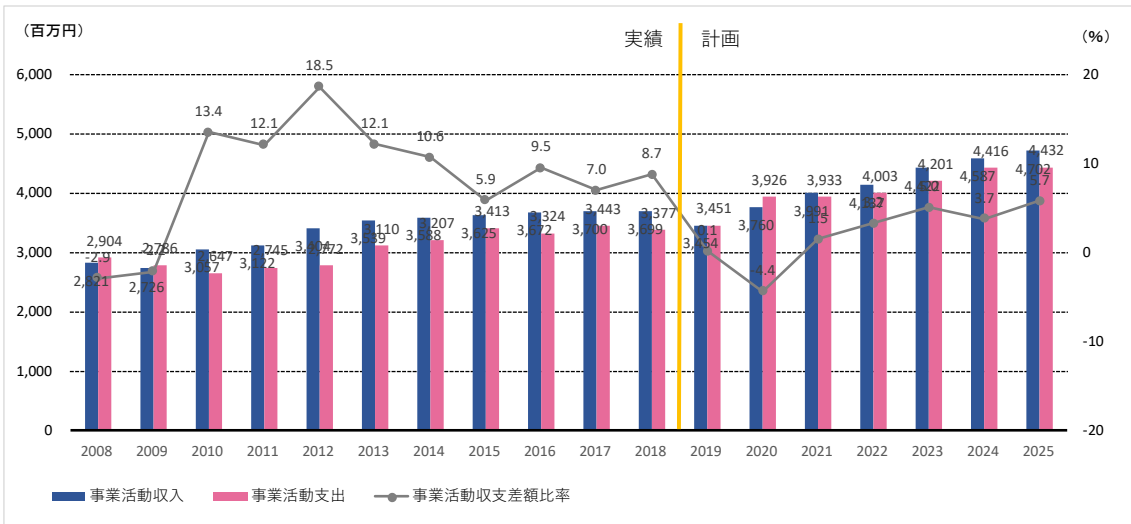
以上

<各種データ>

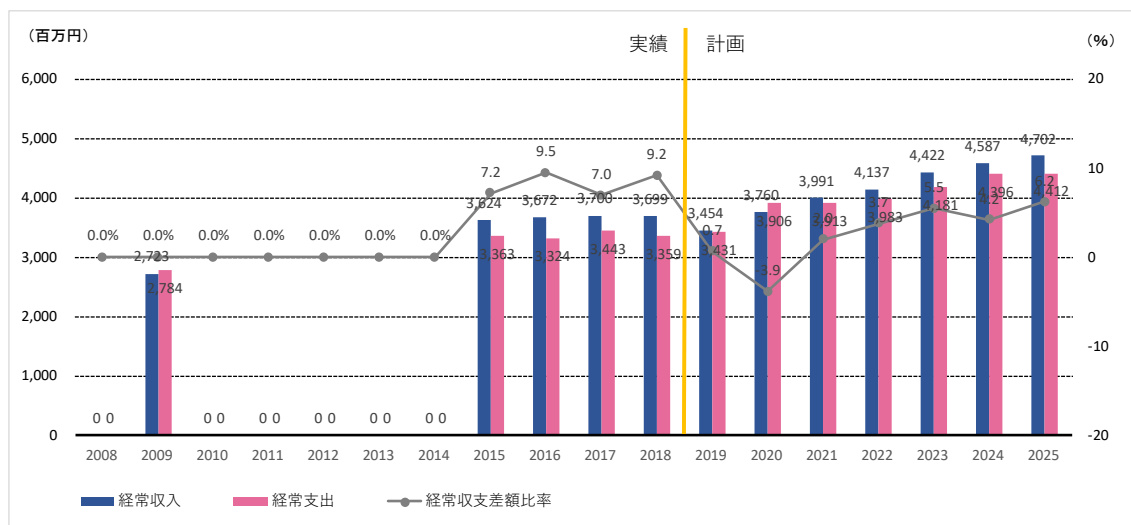
1. 学生数等及び収容定員充足率



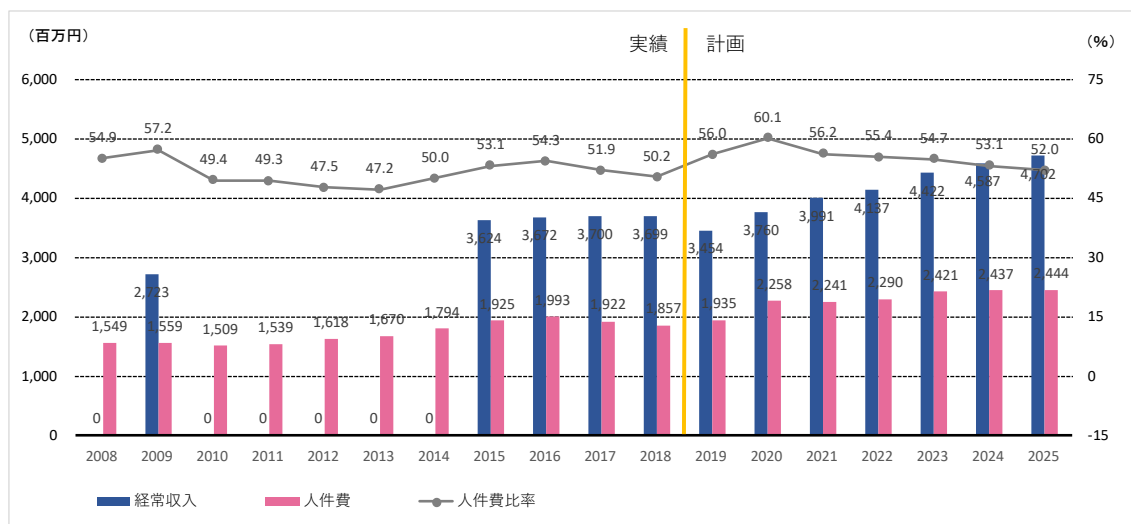
2. 事業活動収支差額比率



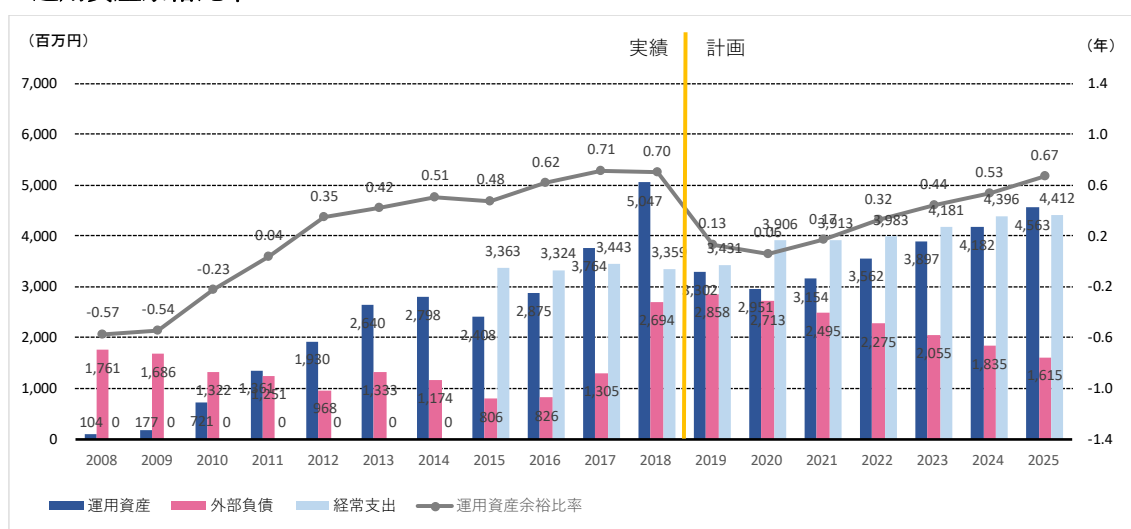
3. 経常収支差額比率



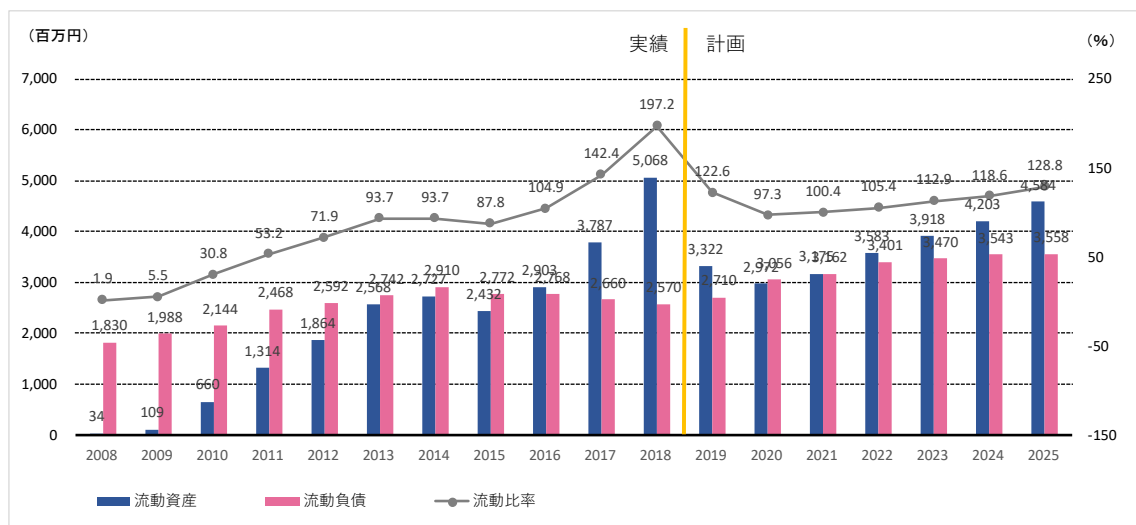
4. 人件費比率



5. 運用資産余裕比率



6.流動比率



7.総負債比率

